

世界史B[分析]

地図・図版を使用した問題が増加

資料の文章を読み取る問題や会話文を利用した問題が多く出題された。第1日程よりも地図・図版が増加し、問題のバリエーションも豊かであった。

難易度（【第1日程(1月16日・17日)】との比較）

第1日程並み

分量、出題の時代・地域などにおいて第1日程とおおむね同じ傾向であった。

出題分量（【第1日程(1月16日・17日)】との比較）

大問数は同じだったが、小問数は1問減って33問となった。

全体のページ数は第1日程と同じ30ページであり（白紙は除く）、センター試験と比べて分量は多い。

出題傾向分析（【第1日程(1月16日・17日)】との比較）

第1日程とおおむね同じ傾向で、資料を読み取る問題、会話文を利用した問題、組合せ問題が多い一方で、センター試験型の4文正誤問題が少なく、年表問題がなかった。出題の時代・地域についても第1日程とおおむね同じ傾向で、古代から第二次世界大戦後まで幅広く出題され、戦後史からの出題を含む近現代がやや多く、アジア・アフリカ史がヨーロッパ・アメリカ史よりやや多い。ただし、第1日程より資料の文章を読み取る問題はやや少なく、資料文そのものの選択問題や資料文を時代順に並び替える問題はなかった。一方、会話文を用いた形式が第1日程より多かった。生徒が作成したパネルを活用した問題、生徒の発言の正誤を問う問題、地図・グラフ・表などを読み取る問題、図版選択問題が出題されるなど、第1日程より問題のバリエーションは豊かであり、第1日程よりも試行調査に近い形式であった。

2021年度【第2日程(1月30日・31日)】フレーム

大問	分野	配点	マーク数
第1問	世界史上の植民地	22	7
第2問	世界史上の工業・産業の変化に関する授業	12	4
第3問	世界史におけるグローバルな接触や交流	15	5
第4問	指導者・君主が自身の言葉によって人々の認識に与える影響	27	9
第5問	世界史上の国際関係	24	8
合計		100	33

2021年度【第1日程(1月16日・17日)】フレーム

大問	分野	配点	マーク数
第1問	資料と世界史上の出来事との関係	15	5
第2問	世界史上の貨幣	18	6
第3問	文学者やジャーナリストの作品	24	8
第4問	国家やその官僚が残した文書	26	9
第5問	旅と歴史	17	6
合計		100	34

設問別分析

第1問

世界史上の植民地をテーマに、Aは授業形式でアフリカのある国の歴史についてを、Bではクーデンホーフ＝カレルギーの『パン＝ヨーロッパ論』所収の地図を、Cではラッフルズの書記が記した資料を扱った問題である。Aでは、要約1～5からアフリカのこの国をリベリアと判断しなければならず、問1・問2ともにリベリアに関する問題であった。Bの問3～問5では、地図から「パン＝ヨーロッパ」の国かどうかの判断が必要であり、受験生には煩雑な問題であった。

第2問

世界史上の工業・産業の変化に関する授業の形をとって、Aは18世紀半ばから20世紀前半にかけての各地域の工業生産のシェアのグラフ、Bは鉄道営業キロ数の統計資料とそれについての会話文を使用した問題。問1・問3は、グラフ・統計資料とそれを説明した会話の内容を、グラフと照らし合わせて判断しなければならない。問3の空欄工は、ドイツ関税同盟の役割を理解していれば解答できる。問4は、生徒が作成したパネルの正誤を判断させる、試行調査に近い形式であった。

第3問

世界史におけるグローバルな接触や交流をテーマとして、Aは古代の文明について、Bはカスティリヤ王エンリケ3世の事績についての先生と生徒の会話を使用した問題。サトウキビがアメリカ大陸原産ではないことを判断させる問2はやや難しい。問3で問われている空欄イは、会話文中の「1840年代のジャガイモ飢饉」という記述からアイルランドであることがわかる。問5は、ティムール朝と同時代の中国の王朝ということから明であると判断したうえで、明についての歴史を述べた文を選択肢から選ばなければならない。

第4問

指導者・君主が自身の言葉によって人々の認識に与える影響について、Aではアウグストゥス（オクタウィアヌス）が死の直前に自身の功績を記した資料を、Bではフランス大統領シラクの演説を、Cでは朝鮮王朝の世宗が訓民正音を制定したときの冊子の序文とこれに反対する臣下の意見を、それぞれ扱って出題している。問1は、「資料の著者の事績」を問うているが、知識で解答するのではなく資料から読み取る問題である。問2・問6・問7は、資料の空欄に単語を入れ、さらに資料から読み取って正しい内容の文を選ぶ同じパターンであった。

第5問

世界史上の国際関係をテーマに、Aではパレスチナ分割案についてについて調査した大学生の授業発表を、Bでは中国西北地域の居延県一帯で作成された木簡に見える年号を、Cでは20世紀の国際関係についての授業を扱った問題で、A・Cでは会話文が利用され、全体として空欄補充問題が多い。問1は、全体の中で唯一出題された、年代の古いものから順に正しく配列する問題で、短文からそれぞれ何回目の中東戦争かを考え、配列する問題。問5の風刺画中の人物名と彼の君主が中国皇帝に要求した内容の組合せ問題は、「中国の皇帝の前で平伏することを拒否した」人物として、「あ アマースト」「い マカートニー」を区別することが難しい。一部の教科書にこの図版があるので、それで学んでいる受験生はよいが、そうでなければ、アマーストが平伏することを拒否したことで皇帝に謁見できなかったという知識から解くしかないだろう。

過去平均点の推移

21年度※ 【第1日程】 (1月16日・17日)	20年度	19年度	18年度	17年度
63.5	63.0	65.4	68.0	65.4

※2021年度の平均点は1/22 大学入試センター発表の中間集計その2の平均点です。